令和６年度　伊那市立富県小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
自立共同の力を高める子ども ○よく考え、やりぬく子ども ○仲良くみんなと支え合う子ども ○いつも明るくじょうぶな子ども	「自立（自主性　責任感　実践力）」「共同（相手意識　協力）」「基本的資質（体力　意思力）」の柱を基本に、人間性豊かで心身共に健全な児童の育成を、具体的な教育活動（学級作りと教科指導）を通して取り組む。
	今年度の重点目標
	⑴伝え合い「心を寄せて聞いたり話したりできる」 ・友だちの考えを聞き、自分の考えを見返す。 ・対話、考えの再構築・表現力の育成 ・学習集団力の向上
	⑵　認め合い「個性尊重・寛容の心を育てる」 ・人権教育の充実 ・ともに活動し学ぶ楽しさ
	⑶　心・からだづくり「意欲をもち継続できる」 ・体力の向上、強い意志 ・健康に関わる意識の向上

総合評価

○学校全体としては、子どもたちは落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。児童アンケートでは「学校生活は楽しいですか」の質問に対して、低学年は 98%が、高学年は 83%が肯定的な評価をして、保護者アンケートでも同内容の質問に対して 90%が肯定的な評価をしている。「児童会活動に進んで取り組んでいる（高学年アンケート）」の質問には 90%が、「楽しみにしている行事がある」の質問には 90%が肯定的な評価をしており、諸活動に前向きに取り組んでいる児童の様子がうかがえる。

○子どもたちの更なる自立や共同の精神を育むためには、教師自身がその重要性を理解し、適切な指導方法を身につける必要があり、教師の研修や専門性の向上が求められる。また、個別最適な学びの実現に向け、児童一人ひとりの特性や学習スタイルに合わせた教育の推進をするとともに、グループ活動やプロジェクトベースの学習を取り入れて、児童が他者と協力して学ぶ共同学習の機会を増やしていく必要がある。

成果と課題	評価	改善策・向上策
⑴　児童のアンケートでは、98%が「友だちの意見を聞いている」と回答しており、聞く態度が身についている。また、85%の児童が「自分の考えや意見を友だちに言ったり、伝えたりしている」と回答している。友だちの考えを聞き、自分の考えを見返し、対話を通して表現力を高められるように取り組んできたが、自分の考えはあるのになかなか相手に伝えることができない場面が出てしまう。	B b	○話すことのはじまりはあいさつなので、今後もあいさつを大事にしていきたい。今年度は、朝の挨拶だけでなく、昼間廊下ですれちがったときに「こんにちは」とあいさつしていく児童を何人も見かけた。今後も、児童会や PTA のあいさつ運動を中心に活動していきたい。多くの児童から考えや思いを出せるように ICT の活用やグループ学習を取り入れて、自分の考えを再構築できる授業づくりをしていきたい。
⑵　児童アンケートでは、88%が「友だちの嫌がることをしないようにしている」、98%が「困っている友だちを助ける」と回答しており、互いに相手のことを思いやる学校生活を送ることができている。	A a	○今後も人権教育を中心にクラスづくりをしていきたい。クラスの雰囲気が学校生活の基本となるので、職員自身の人権感覚を磨き、子どもたちにとって居心地のよい学級運営をしていく。普段から一人ひとりにも気を配り、定期的にアンケートや面談を実施して、早めにその子どもの困っていることに気づけるようにしていく。
⑶　体力テストの分析を用いて、児童の実態に即した体づくり運動やコーディネーショントレーニングを体育集会や体育の授業の中で取り入れてきた。また、児童会活動や保健指導で、健康に関わる意識を高める取り組みをしてきた。保護者アンケート「健康管理や体力向上に努めていますか」の肯定的意見が 77%と少ない回答である。	B b	○児童会が中心となって朝の時間や休み時間に、体力向上につながる取り組みができるように支援していきたい。それらの活動や体力テストの結果を、学校保健委員会、学校だよりなどで保護者に発信していきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○体験を通して学ぶ、総合的な学習や教科学習等	○富県ならではの学習や地域素材、栽培活動、農業体験活動、調理活動などの体験活動を重視した生活科、総合的な学習、食育等に取り組み、富県小の特色ある学習を展開してきたか。	○とみがたっ子応援団（コミュニティースクール）の皆さんに協力していただき、4 年は小麦栽培を行った。保育園児とも共同作業する場面を設け、保育園児との交流の場ともなった。また、学校の隣の畑で栽培した大根やカボチャ、さつまいもなど給食の材料として使っていただき、全校で味わうことができた。	A a	○富県ならでは学習や特色のある活動については、生活科や総合的な学習の中核に位置付けて、今後も地域の方（保育園児や高校生も含む）との交流を各学年、学校全体で取り組んでいく。栽培活動は、伊那市でも食育に力を入れている、自校給食につながることなので、生活や総合だけでなく、家庭科などの学習とも関連させて、子どもたちに食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくようにしていきたい。
		○児童同士や地域との「かかわり」を取り入れた教育活動	○「地域の方から学ぶ」「地域の方とかかわる活動」を取り入れた教育活動を展開したか。 ○縦割りなかよし班での学校行事や児童会活動が展開できたか。	○保護者のアンケートでは、94%が「地域と連携して教育活動をしている」と回答した。児童のアンケートでは、96%が「なかよし班の人と協力しながら活動している」と回答した。それぞれの学年で、高校生や保育園児、地域の方々、そして校内異学年と出会う場面を設けて活動してきたことが、子どもたちや保護者への理解につながってきている。	A a	○職員がさらに地域を見つめることができるように、外部人材との連携で地域の方から学ぶ場を増やしていく。地域の方々との交流の場を増やしていきたい。応援団の皆さんに協力していただきながら、地域の人材を見つけていきたい。 ○今後も児童会中心になかよし班で活動する場面を多くしたり、清掃を縦割り班で行ったりしていきたい。
	学習指導	○授業における「伝え合い」	○友だちとの対話を通して、互いに考えを深め合う授業ができていたか。	○教師同士が、お互いに気軽に授業を見合う環境にした。また、今年度は数回道徳の授業でクラスを交換して取り組んできた。授業の中では、グループやペアによる課題解決型の授業を積極的に進めてきた。保護者アンケートでは、96%が「友だちの意見を聞いて考えを深めたり、思考したりする授業を心がけて授業をしている」と回答している。	A a	○来年度も引き続き、授業の中で自分の考えや思いを伝え合う場面を位置づけたり、グループやペアによる課題解決型の学習を進めたりしていく。また、学級全体の子ども同士の考えや思いがわかるように、ICT 機器なども活用していく。
		○児童中心の分かる授業	○ねらいを明確にした授業、子どもの主体性を促す授業展開などにより、子どもたちにとって「わかる授業」になっていたか。	○児童アンケートでは 96%、保護者アンケートでは 94%が、「授業がわかりやすい」と回答した。昨年度課題としてあがった授業への困り感を持っている児童に対して、本年度は、支援員の活用を行ってきた。	A b	○授業への困り感をもっている子どもに対し、その子の特性に寄り添って指導していく。学級一斉の課題を与えるのではなく、その子の特性に応じて課題を変えていく。そのために、個に対応した課題を設定したり、指導や支援をしたりして、個を理解し個が認められる学級づくりをしていく。
	生徒指導	○一人一人の児童に寄り添った、適切で迅速な指導	○職員間での情報交換、児童との対話により児童理解に努め、家庭と連携しながら迅速な指導ができたか。	○児童アンケート「嫌なこと困ったことを先生に相談できる」では、94%の児童が肯定的な回答しており、保護者アンケート「お子さんについて気軽に相談できる雰囲気がある」では、98%の保護者が肯定的な回答をしている。引き続き、日頃から子どもや保護者と相談する体制づくりを維持する必要がある。	A a	○定期的に子どもの話を聞くために、子どもたちと相談する時間、相談週間をつくる。日頃から子どもが相談しやすい雰囲気をつくるために、子どもの活動の中に職員が一緒に活動していくようにしていく。また、保護者には、懇談会だけでなく、気軽に相談できる体制や放課後の時間をつくっていく。
		○日常的に人権感覚を高める指導と、いじめ防止のための取組	○子どもたちの良さを認め、温かみのある学級作り、人権教育や道徳教育への積極的な取り組みにより、日常的に人権感覚を高める指導ができたか。 ○いじめの早期発見、対応、再発防止に取り組んできたか。	○児童アンケート「困っている友だちがいたら助けてあげようとしますか」では、98%、「先生は自分のことを褒めたり叱ったりしてくれる」では 97%の児童が肯定的な回答をした。道徳で他者意識を高める授業を展開しており、子ども同士で、または、教師から相手のよさを認め合う場がそれぞれの学級でできている。 ○年 2 回の「学校生活アンケート」を実施して、いじめに関することを中心に調査してきた。アンケートを行った後、子ども一人ひとりと面談をして、いじめの早期発見に努めた。また、担当の学級以外で授業を行い,全職員で全児童を見守ってきた。	A a	○指導すべきことは指導するとともに、その子のよさを見つけ、その子に共感しながら思いを受けて止めていくようにする。 ○今後も子どもとの信頼関係を築き、普段の生活の中からの相談や定期的にアンケートをとり、子どもと相談する日を設け、いじめの早期発見に努めていく。
学校運営	安全	○児童の登下校の安全確保	○日常の通学指導や定期的な街頭指導、えがおみまもり隊の活動により、子どもの登下校の安全確保に努めたか。	○保護者アンケート「子どもの安全について家庭や地域と連携した取り組みをしている」では 96%の保護者が肯定的な回答をした。学校だよりで地域の方に下校時刻を知らせ、地域の方に下校時刻には外に出て子どもたちを見守るようにお願いしてきた。	B b	○PTA 校外指導部を中心に、通学路の安全点検を行っていただき、PTA や地域の方と協力して、安全についての指導を継続し、安全な登下校ができるようにする。また、「えがおみまもり隊」（登下校の見守り隊）との交流もしていきたい。
	地域との連携	○学校と地域、保護者との協力体制の構築	○保護者や地域の方と協働体制の構築を進めたか。 ○学級だよりや学校だより等で学校の様子を積極的に知らせたか。	○保護者アンケート「地域と連携した教育活動」では 94%の保護者が肯定的な回答をした。PTA やとみがたっ子応援団を中心に、学習ボランティア、読み聞かせ、高鳥谷遠足、キャリア学習会などの活動を行ってきた。 ○保護者アンケート「担任や学校からのお便りなどで子どもの様子がわかる」では 98%の保護者が肯定的な回答をした。12 月より保護者との連絡アプリを使って、保護者からの欠席の連絡や学校からお便りの配信をしてきた。	A b	○地域の方に子どもたちの授業を見ていただく日を設けたり、子どもたちの学習活動を支えていただくボランティアを募集したりして、地域の方が学校に足を運んでいただく機会をつくる。 ○今後も学級だよりや学校だよりを中心に保護者や地域の方に学校の様子を伝えていくとともに、ホームページの有効活用も行っていく。
	研修	○よりよい授業ための授業研究	○一人一公開や模擬授業、授業研究会を通して、授業力向上を図ることができたか。	○ICT の活用の授業や道徳の授業をお互いに見合う機会があった。昨年度に引き続き、全校のテーマを「子どもたちが自分の思いや考えを伝え合いながらお互いに学び合うすがたをめざして」とし、①お互いに自分の意見を伝え合う場を設定する、②子ども	A a	○来年度も公開授業を中心にお互いの授業を見合いながら授業力の向上を図っていきたい。そのためにも、職員が一つになってテーマを考え、全体で共通して取り組んでいくことを決めだしていきたい。

					たちが自ら学び合っていける学習環境の工夫を普段の授業の中に取り入れてきた。		
		○教職員としての資質向上のための研修	○校外研修への参加・伝達、校内研修の充実により教職員としての資質の向上を図ることができたか。		○積極的に校外研修のお知らせをしてきた。校外研修が終わった後、研修で学んだことを全職員に広げるために、職員会議の中で報告できる時間を設けてきた。地域の方を招いて職員の地域学習を行ったが、地域のひと・もの・ことについては、職員がまだまだ知らないことが多いように思われる。	B b	○地域の外部人材を探っていきたい。とみがたっ子応援団の皆さんを中心に声をかけていく。また、外部の研修にも積極的に参加できるように、職員へ声がけや職員体制をつくっていきたい。